

2025(令和7)年度 学校推薦型選抜入学試験問題

基礎学力テスト

(時間 60分)

受験上の注意事項

- 【1】 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 【2】 受験票及び机上の受験番号シールに印刷された受験番号及び氏名が間違っていれば、速やかに監督者に知らせなさい。
- 【3】 この問題冊子は、本文が31ページあります。
問題冊子の印刷が不鮮明であったり、ページが落丁・乱丁していたり、解答用紙に汚れ等があったりする場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 【4】 机上には受験票・筆記用具及び時計等監督者から指示された物以外は置いてはいけません。
- 【5】 監督者の指示があるまで退室はできません。
- 【6】 解答用紙の解答科目欄の「基礎学力テスト」にマークしなさい。マークされていなかったり、複数の科目にマークされていたりする場合は、採点できないことがあります。
- 【7】 解答用紙については、特に次の点に留意しなさい。
- ① マークには必ず黒鉛筆（HB）を使用しなさい。
 - ② 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように解答欄ウの③にマークしなさい。
- （例）
- | | 解 | 答 | 欄 |
|---|---|---|---|
| ウ | ① | ② | ③ |
- ③ 折り曲げたり、汚したりしてはいけません。
 - ④ 解答用紙には、答案に関係のない語句・記号を書いたり、落書きをしたりしてはいけません。（問題冊子には書き込んでもよい。）
 - ⑤ 誤ってマークした場合は、消しゴムできれいに消して書き直しなさい。
- 【8】 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問

A 次の【a】～【e】で、下線部のカタカナを漢字に改めたときに正しいものを、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。解答欄は【a】は ア、【b】は イ、【c】は ウ、【d】は エ、【e】は オ

【a】 会社のエンカクを調べる。

- ① 円核 ② 遠隔 ③ 縁格 ④ 沿革

【b】 二千年前の都の姿を思い浮かべたがるのはカイコ趣味だよ。

- ① 解雇 ② 回顧 ③ 懷古 ④ 会故

【c】 国会で新法案のサイケツが行われた。

- ① 裁決 ② 採血 ③ 裁結 ④ 採決

【d】 一宿一飯のオンギを返したい。

- ① 恩義 ② 穩喜 ③ 溫宜 ④ 御儀

【e】 局面のケイセイを判断する。

- ① 型成 ② 傾性 ③ 形勢 ④ 警世

B 次の【a】・【b】の各群の中で、対義語の組み合わせとして正しくないものを、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。

解答欄は、【a】は 力、【b】は キ

【a】

- ① 濃厚 — 淡泊
- ② 理性 — 知性
- ③ 給水 — 排水
- ④ 快樂 — 苦痛

【b】

- ① 延長 — 短縮
- ② 単純 — 複雑
- ③ 偉大 — 微小
- ④ 困難 — 容易

C 次の【a】～【c】の□に正しい漢字を1つずつ入れて、それぞれの四字熟語を完成させよ。漢字はそれぞれ①～④の中から選べ。

解答欄は、【a】は ク、【b】は ケ、【c】は コ

【a】 徹頭徹□

- ① 足 ② 腹 ③ 尾 ④ 手

【b】 森羅万□

- ① 象 ② 年 ③ 化 ④ 林

【c】 付和□同

- ① 雨 ② 雷 ③ 異 ④ 礼

D 次の【a】～【d】の下線部の用法に最も近い用法の下線部を含むものを、それぞれ①～④の中から1つずつ選べ。

解答欄は、【a】は サ、【b】は シ、【c】は ス、【d】は セ

【a】 この後はパフェでも食べに行きたい。

- ① 説明を読んででもいないのにわかった気分になっていた。
- ② やっぱこの店でも売ってなかったよ。
- ③ そろそろ雪でも降ってきそうだ。
- ④ どんなに遊んでも遊び足りない。

【b】 この映画ではあの俳優が主人公を演じている。

- ① まだ朝早い時間だが人通りが多い。
- ② パリにはセーヌ川が流れている。
- ③ ライオンが我が物顔で歩いている。
- ④ 雨が降りそうだった。が、降らなかった。

【c】 次はあの会社とも契約を結びたい。

- ① 遅くとも8時には会社に帰れるだろう。
- ② もちろん今からでも間に合いますとも。
- ③ 同級生だけでなく恩師とも話ができた。
- ④ 時とともに記憶は薄れていくものだ。

【d】 プレゼントを包装紙できれいに包んだ。

- ① 喉が渴いたのでコップに水を注いだ。
- ② 友達が広島に引っ越してきたそうだ。
- ③ この公園の辺りは子どもたちでいつもにぎやかだ。
- ④ 彼の発言は大きな影響を与えたようだ。

E 次の空欄に入る最も適切な故事成語を、それぞれ ① ～ ⑧ の中から 1 つずつ
選べ。解答欄は、【a】は ソ、【b】は タ

【a】 彼の（ ）な記録は、人間の無限の可能性を示した。

【b】 有力選手を欠いた私たちのチームは、（ ）の覚悟で決勝戦に臨んだ。

- | | | |
|--------|--------|---|
| ① 塞翁が馬 | ② 大器晩成 | ③ 先 ^ま ず ^{かい} 隗より始めよ |
| ④ 背水の陣 | ⑤ 国士無双 | ⑥ 逆 ^{げきりん} 鱗に触れる |
| ⑦ 漁夫の利 | ⑧ 破天荒 | |

F 次の意味を表すカタカナ語として最も適切なものを、それぞれ ① ～ ⑥ の中から
1 つずつ選べ。解答欄は、【a】は チ、【b】は ツ

【a】 外から人や物などが入って来ること。現在、日本では海外からの観光客が
急増し、経済効果につながっている。

【b】 商品やサービスを広告・宣伝するための活動や手法のこと。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| ① イデオロギー | ② サステナブル | ③ インバウンド |
| ④ オマージュ | ⑤ プロモーション | ⑥ エビデンス |

G 次の①～⑨の中で、誤字や誤用、表記等の誤りを含むものを3つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、

テ

～

ナ

- ① さきほどから声高に主張しているあの人の言い分は全く理解できない。
- ② クリムトの「死と生」の絵は左右対称の構図で描かれているそうだ。
- ③ けがをした彼の出場辞退は、やむおえないことと理解してほしい。
- ④ さっきみたいに他人に責任転化してはいけないと思うよ。
- ⑤ 注意事項を熟読のうえ、ご登録ください。
- ⑥ 大きいおにぎりを3個はおばって、やっと腹の虫が鳴かなくなった。
- ⑦ 決勝戦で惜しくも敗れたが、その活躍は特筆に値する。
- ⑧ 秋の日はつるべ落とし、昼間の時間が短いのが惜しまれる。
- ⑨ 思い込みで善悪を判断するなど言うのは決して正しい。

第2問

A 次の会話文を完成させるために、空欄 ～ に入れる最も適切なものを、それぞれ ① ～ ④ の中から1つずつ選べ。解答欄は、問1は 、問2は 、問3は 、問4は 、問5は

問1 A: Hi, are you ready to order?

B: I'm still deciding.

A: No problem, let me know when you're ready.

- ① Well, . . . not yet.
- ② Yes, I'm ready.
- ③ Your order isn't ready.
- ④ Sorry, did I order this?

問2 A: Hey mom, do you know how often the bus to the airport runs?

B: I'm not sure. I think , but you'd better check, just in case I'm wrong.

A: Okay, I'll look at the timetable online. Thanks!

- ① it runs from the city center to the airport
- ② it's a 20-minute run to the bus stop
- ③ you can buy tickets online in advance
- ④ there is one every twenty minutes

問 3 A: Could you repeat the answer one more time, please?

B: Sure. The answer is 'A.'

A:

B: 'A' as in 'Apple.'

- ① How sure?
- ② Sorry, I couldn't catch that.
- ③ Don't get me wrong.
- ④ Are the answers here?

問 4 A: Congratulations on your win! How do you feel?

B: Thank you! I'm really excited and happy.

A:

B: I'd say it was hard work and the support from my team.

- ① What do you think was the key to your success?
- ② Were there any challenges you faced today?
- ③ What would you like to say to your fans?
- ④ How important was this win for you and your team?

問 5 A: How was your job interview?

B: Now, I'm waiting for the result.

A: Good luck! When will you know?

B: By the end of this month.

- ① I really wanted that job.
- ② It was too late.
- ③ I think it went well.
- ④ It was cancelled.

B 次の各和訳に対応する英文にするため、それぞれ①～④の語句を適切な空所に入れた際、カ～クに入る選択肢の番号を選べ。

解答欄は、問1はカ、問2はキ、問3はク

問1 私たちが結婚してから50年が過ぎた。

Fifty years have カ got .

- ① married ② since ③ passed ④ we

問2 医者は私の目に異状はないと言った。

The doctor said was キ with .

- ① my eyes ② there ③ wrong ④ nothing

問3 来るのに都合が良いのはいつですか？

When ク convenient you come?

- ① is ② to ③ for ④ it

C 次の英文を読んで、後の問いに答えよ。

Standing across from me, on the other side of the (x)ring, was the heavyweight boxing champion of the world. All eyes were on the two of us, and many spectators were shouting words of encouragement*. My parents and my brothers were watching from their seats in the arena, and I knew that many of my friends were also watching the event on pay-per-view*.

I had trained long and hard for this fight, I was in the best shape of my life, and I was very determined to win. This was my chance to become the world champion, and (y)I would not let myself be defeated, no matter what.

The bell rang to begin the fight, and the crowd cheered excitedly. My opponent* and I began to circle each other, carefully managing to set our distance, and both of us looking for the right moment to attack. When the opportunity came, I aimed* a hard, right-handed punch at the champion's temple*. Just as my fist* made contact with his head . . . I was awakened by the loud bang of my hand ケ into the wall next to the bed! I heard my wife, who had been コ sleeping next to me, ask, "What was that? Are you OK?" And then I felt a terrible pain in my right hand.

I quickly realized what had happened, and I responded to my wife's questions by saying, "It's OK. Go back to sleep. It was just a dream."

(注) * encouragement – 励まし

* pay-per-view – ペイパービュー (視聴者が個別の番組やイベントごとに料金を支払って視聴する方式。主にスポーツイベントで使用される。)

* opponent – 対戦相手

* aim(ed) (A at B) – (AをBに) 向ける

* temple – こめかみ

* fist – 拳 (こぶし)

問1 空欄 ・ に入る最も適切な語句を、それぞれ ① ～ ④の中から1つずつ選べ。解答欄は、 ・

- | | | |
|--------------------------------|------------|----------------|
| <input type="text" value="ケ"/> | ① crash | ② crashes |
| | ③ crashing | ④ crashed |
| <input type="text" value="コ"/> | ① peace | ② peacefulness |
| | ③ peaceful | ④ peacefully |

問2 ring について、下線部(X)の ring と同じ用法で使われているものを、次の ① ～ ④の中から1つ選べ。解答欄は、

- ① If you hear the phone ring, please answer it.
- ② They performed inside a large ring.
- ③ The teacher marked each mistake with a red ring.
- ④ She's wearing a diamond ring on her finger.

問3 下線部(Y)に最も意味が近いものはどれか、次の ① ～ ④の中から1つ選べ。
解答欄は、

- ① どんなことがあっても私が勝つことはなかっただろう。
- ② 何も起こらなければ私は絶対に勝つ。
- ③ 私は勝てなかった自分をどうしても許すことができない。
- ④ 何があろうと私は絶対勝たなくてはいけない。

問4 英文の内容と一致しているものはどれか、次の①～⑥の中から2つ選べ。

ただし、解答の順序は問わない。解答欄は、

ス

・

セ

- ① 夢の中で筆者はボクシングのヘビー級世界チャンピオンだった。
- ② 夢の中での試合は配信されず、会場での直接観戦のみ可能であった。
- ③ 夢の中で選手2名はゴングが鳴った後、その場でくるくる回り始めた。
- ④ 夢の中の選手2名は攻撃を仕掛ける絶好の距離を互いに探っていた。
- ⑤ 夢の中で攻撃したのと同じ手で、筆者は壁を殴ってしまっていた。
- ⑥ 夢が非常にリアルで、筆者は起きた後も夢と現実の区別がつかなかった。

第3問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

マルセル・ブルーストは紅茶に浸したマドレーヌの香り、味わいをきつかけに、祖父母の家で過ごした田舎町の記憶が蘇るシーンを、小説『失われた時を求めて』の初めに描いている。この大長編はなかなか読み切れないが、冒頭の至福の思い出に至る経緯は誰もが経験することだけに、人々の間に刻み込まれた。

大江健三郎が、森の中で手にした雪から小説を発想するというようなことを書いていたが、まさにそれは、知覚の過程そのものが芸術だとする大江の考えに合っている。手に触れた雪、五感の過程が、芸術の長い時間を生み出す。おそらく、「失われた時」も知覚を通して、その都度「生まれいずる時」に変わるのだろう。

嗅覚、味覚もさることながら、聴覚を通して思い出が蘇ることも多い。いや、音楽ほど、記憶の底にあった思いを引き出すものはないだろう。音、フレーズによって、あの人、あの場面がまるで今のこのように浮がび上がってくる。

とりわけピアニストのマルタ・アルゲリッチは、あの独特の一音を聴くだけで、私の中で、過去と現在、未来が自在に行き来する。そして、聴いたときの私自身の状況までが思い出される。

東日本大震災（二〇一一年三月）の直後、放射能が日本中を覆うと言われ、来日を予定された演奏家の多くが取りやめた中で、アルゲリッチは「自分は少しピアノが弾けるだけの、何もできない女に過ぎない、と思った」と同年五月の「別府アルゲリッチ音楽祭」に来日した。多くの日本人演奏家が出演した「マラソン・コンサート」の冒頭に、大分県にゆかりのある滝廉太郎が被災地の仙台市生まれの土井晩翠の詩に作曲した『荒城の月』を、津久見極の実少年少女合唱団が歌った。大震災への哀悼と見舞いの意を込めた少年少女の透徹した声が流れた瞬間、舞台袖で聴いていたアルゲリッチは、涙が流れたという。静まり返った会場でも、そこそこで目頭を押さえる人がいた。為す術も無い絶望感にとらわれていた私は、なぜか、自分に強烈な罪意識を

感じた。

続いてアルゲリッチが舞台に登場し、合唱団の伴奏をする。なんとも豪華な情景！ 曲はアルゲリッチの母国、アルゼンチンの《荷馬車引きの歌》など。《荒城の月》から引き継がれた哀愁は、やがて民族的なリズムのはじけるような楽しさに変わってゆく。アルゲリッチの喜怒哀楽がそのまま出て、自然に祈りに誘われた。

そのとき、何人かでアルゲリッチを囲んだ中で、彼女は東日本大震災のチャリティー・コンサートがドイツの鉄道駅で行われる計画が進んでいる、と話した。ついでのように、ふと「私は鉄道が好きなの。フランスよりドイツの列車や駅がいい。夜遅く一人で駅のカフェに行くのが好き」と、もらした。ドイツ西部のライン河近くに住んでいたことがあると言っていたから、ボンかケルンの中央駅だろうか。私の中で、旅行者も途絶えた夜中、プラットフォームの端近いカフェで、長い髪の女が一人、高い椅子に腰掛け、コーヒを飲んでいる姿が思い浮かんだ。カウンターの中では、年老いたマスターがもう店じまいの準備をしているかもしれない。ハンブルク行きの最終列車の赤い尾灯が、ホームの高い天蓋の下からぬけて曲がり、闇に消えてゆく。それは私自身の記憶が呼び起こされたのか、アルゲリッチの音が体の中にイメージを広げたのか判然としない。

アルゲリッチの音によって、幸福も苦しみも引き出される。その両方に、どこか孤独な匂いがする。それも、表面的なものではなく、定めにまつわるような本質的な孤独。その孤独がアルゲリッチの演奏の核に潜んでいるのだろう。

アルゲリッチは八十歳を超えた。テクニク的には何の衰えも無い。

にもかかわらず、私は、最近のアルゲリッチの演奏から、「X」を学んでいる。

啓示を与えてくれたのは、コロナ前に行われたアルゲリッチと小澤征爾指揮水戸室内管弦楽団が共演するコンサートと、コロナ後に行われたディエゴ・マテウス指揮水戸室内管弦楽団の共演で、いずれも「別府アルゲリッチ音楽祭」の東京公演である。前者はベートーヴェン《ピアノ協奏曲第2番》。

アルゲリッチのピアノは何の構えもなく舞い降りてきて、輝かしさとやわらかさを兼ね備えた音が自由に駆け回る。若いときから天衣無縫であったアルゲリッチは、奔放な自由がいくつもの濾紙^{ろし}を通して徐々に濁りを消し、積み重ねてきた個性は水が透きとおった環^わを運べるように広がってゆく。今、アルゲリッチにしかない音、歌、リズム、色は極まり、そしてそれに反して、不思議なことに、音楽に及ぼすアルゲリッチの個性を意識しなくなる。その姿が音楽の中から消えてゆく。音の存在だけが聞こえてくる。

後者は、ラヴェル《ピアノ協奏曲》。テクニクは昔そのままに輝かしく、第3楽章は、おそらくこれまでの彼女の最速の演奏だったろう。ほかの演奏家からは決して聴くことのない血潮がうずくような音も変わらない。ムチの音の開始の合図と同時に入る第1楽章冒頭のピアノの速いパッセージ^(注1)が、ピアノニッシモ^(注2)を極める。その中から生き生きとしたリズムが生まれる。突然、ピアノの音色が変わって憂いを帯びた訴えかけになる。そのところの微妙な揺れ動きも相変わらずアルゲリッチそのものだが、それ以降も含めて、驚くほど以前と変わったとも言える。それは、どこにも解釈が見えないことだろう。フレーズの絶妙な伸縮が、これまでと異なつて「解釈」ではなく、なにか音の生物のように自然に息づいている。そこにラヴェルの思惑もアルゲリッチの意図も感じられず、それでいてラヴェルであり、アルゲリッチ以外の何物でも無い。

アルゲリッチでいながら、音楽の中からその姿が消えている。それは天才の行き着いたところなのだろうが、凡人の私は、そこから、年齢と共に自分を出さないようにする、自分を消すことを学ぼうとしている。

(梅津時比古^{うめづときひこ}「アルゲリッチの音」による)

注1 パッセージ：旋律音の間を速やかに動く部分。

注2 ピアニッシモ：楽譜で「つく弱く」と指示する音楽記号。

問 1 文章中の空欄 に当てはまる語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

- ① 記憶 ② 本の読み方 ③ テクニック ④ 老い方 ⑤ 哀愁

問 2 本文の内容として誤っているものはどれか、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

- ① 人間の五感は記憶と深く結びついているが、とりわけ音楽は記憶の底にある思いまで鮮やかに浮かび上がらせる。
- ② 東日本大震災直後の放射能汚染の風評にもかかわらず訪日したアルゲリッチの孤独が、演奏会をいつそう深い絶望感で満たした。
- ③ 鉄道が好きだといったアルゲリッチの言葉は、筆者の中に具体的なイメージを結ばせ、演奏の核に彼女の孤独が潜んでいると思われた。
- ④ 若い頃から天衣無縫だったアルゲリッチの個性は年齢とともに広がって音楽の中に溶け込み、音の存在だけが届くようになった。
- ⑤ 年を重ねるにつれて個性を音に昇華させた天才に学んで、筆者は老いるとともに我執を消したいと思っている。

第4問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ヨーロッパ音楽の形式上の種類は非常に多く、古代舞曲、民族舞曲、独立してそれぞれ異なった名称があたえられている楽曲、いくつかの音楽形式の組み合わせによる組曲や、協奏曲や、交響曲などの場合や、声楽的形式、オペラなどの舞台形式など、音楽形式学の扱う範囲はきわめて広い。

しかし、伝統的なヨーロッパ音楽は、 $A \rightarrow B \rightarrow A$ （注1）に典型的に現われているように、反復と対照によつて統一をはかろうとする形式感にもとづいている。いわば、壁面に正三角形を^{まづ}画いて配置された豆電球が、均等な時間差をもつて点滅するような、均衡、安定、端正さというものが基礎となっている。

ところが現代の音楽（注2）には、かつて X とされたこのような均衡のとれた安定感は、もはや有効なものではなくなってしまう。古典音楽を見るのと同じ^め目で現代音楽を見るならば、そこにあるものはむしろ、アンバランスで不安定なもの、としか映じないであろう。

京都の古い庭を歩く。まがりくねった道の一つの角をまがりきると、あるいは、ふと一本の木を通りすぎると、その瞬間に、まるで今までとは違う景観が眼にとびこんできて、驚かされることがある。風が吹く——また新しく見える。歩くほどに、一つの庭がいろいろな異なった庭に見えてくる。

一方、ヨーロッパの名園といわれるものは、みんな高いところから見おろすようにできている。一目で見おろせるその空間は、たしかに均整がとれていて美しいかもしれないが、それとはまったく無関係な遠いところで時間が流れていく。ところが京都の庭では、すぐ隣りあわせだった——。

現代の音楽について語るとき、古い日本の庭をひきあいに出すのは奇妙なことかもしれない。しかし、現代の音楽形式について理解をもとうとすると、^Aこの比喩について考えてみることは、必ずしも的はずれではないと思う。現代にあつては、音楽がそこにある、その一瞬一瞬のうちにこそすべてがかけられているのであつて、ちやうど古い京都の庭を、高いところから見おろして観賞することがまったく意味がないように、古典的な形式感をもつ

て現代音楽に接するのは、あらゆる誤解を生み出すものになろう。

職業化され、商業化された現在の演奏家の手による古典音楽には、あたかも、商店の店先に並べられている商品をひやかすような、距離をおいた客観的な態度で接することも、ある程度聞き流すことも許されようが、もし、真に現代音楽への理解を深めようと思うのなら、そのような客観的な態度は期待を裏切るばかりであろう。みずから創造的な感性をもって、音楽のなかへ立ち入っていかないかぎり、現代音楽は生きた存在となって呼吸をとにもすることはなく、そこに音楽の営みは生まれない。

遠い過去の社会では、作曲者は同時に演奏者であり、聴衆がいたとしても、それはいつでも立場を逆転しうる一体のものであった。音楽はつねに、作り手、弾き手、聞き手の区別なく存在していた。この三者の関係は時代とともに **Y** し、現代では録音技術の進歩のおかげで、ついに聞き手はいついかなるところでも、一台のオーディオセットさえあれば、自由に作曲者や演奏者を選択し、わが家の居間でも思いのままにオーケストラを聞けるようになった。それに加えてマス・メディアの発達のおかげで、ある場合にはベートーヴェンの響くかたわらで、強盗事件を報ずる新聞の社会面を読み、セレナード（注3）を耳にしながら夫婦喧嘩（^{ふうふけんか}）をするような光景は、必ずしも笑うべきこととはいえなくなった。聞き手とは何の関係もなく、スピーカーは音楽を提供するのである。音楽は一見人間の生活を彩っているかに見える。

しかし、もはや **B** ここには音楽の営みはない。音楽はただ聞き流されているにすぎず、私たちとその音楽とは、何のかかわりも生まれてはこない。ちょうど、この世に何十万種類の植物や動物たちが生きていようとも、「植物」という名の植物、「動物」という名の動物、「生物」という名の生きものは実在しえないのと同じように、「音楽」という名の音楽、いわば〈音楽そのもの〉はつねに私たち自身の内部にしか存在しない。それは遠い昔においても、オーディオが発達した今日においても、また将来においても変わるところはない。私たちの内部にある音楽とは、いわば **C** ネガティブの音楽世界であり、作曲する、演奏するという行為は、それをポジティブな世界におきかえる作業にはかならない。音楽を聞こうとする態度もまた、新たなネガ

テイヴの音楽世界の喚起を期待することであり、作り手→弾き手→聞き手→作り手という循環のなかにこそ音楽の営みがあるということは、遠い昔もいまも変わりがない。積極的に聞くという行為、そして聞かないという行為は、つねに創造の世界へつながっている。

この^D創造的な営みこそ、あらゆる意味で音楽の基礎である。

(^{あくだがわやさし}芥川也寸志『音楽の基礎』による)

注1 A→B→A…音楽の形式の一つ。AとBはそれぞれ別の旋律を表し、Aから始まってBに移り、その後Aが反復されるもの。

注2 現代の音楽…ここではジャンルとしての現代音楽のこと。伝統的な西洋音楽のきまりからの逸脱に特徴がある。

注3 セレナード…元々夕べに恋人宅の窓の下で恋人に対して愛を込めて演奏する楽曲。

問1 空欄 ・ に入る語句として最も適切なものを、次の

①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。解答欄は、空欄Xは 、

空欄Yは

X ① 二律背反 ② 空理空論 ③ 大言壮語 ④ 金科玉条

Y ① 錯誤 ② 分化 ③ 一致 ④ 蓄積

問 2 傍線部 A 「この比喩について考えてみることは、必ずしも**的はずれ**ではない」とあるが、なぜ「**的はずれではない**」と言えるのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答欄は、

ウ

- ① 現代の音楽は、形式的な均衡をもたず東洋的である点で古い日本の庭園と共通し、ヨーロッパの名園が均整さをもち非東洋的であるとは異なるから。
- ② 現代の音楽は、正面から向き合ったときに格調高く思えるように作っている点で古い日本の庭園と共通し、ヨーロッパの名園が一目で見下ろせる全体像を美しく作っているのとは異なるから。
- ③ 現代の音楽は、その中で出会う一瞬一瞬を大事に作っている点で古い日本の庭園と共通し、ヨーロッパの名園が均整的な美しさを高所から一望するように作っているのとは異なるから。
- ④ 現代の音楽は、前近代的で変化に富んだ形式に回帰している点で古い日本の庭園と共通し、ヨーロッパの名園が近代的で画一的な側面をもつとは異なるから。
- ⑤ 現代の音楽は、形式の種類が少なく単純なものが多い点で古い日本の庭園と共通し、ヨーロッパの名園が多様な形式をもち種類が豊富であるのとは異なるから。

問3 傍線部B「ここには音楽の営みはない」とあるが、このように言うのはなぜか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

解答欄は、

エ

- ① 音楽の演奏を楽しもうとするなら演奏会場に行くのがよいのに、聞き手はスピーカーでの鑑賞で済ませているから。
- ② マス・メディアの発達で音楽を聞く機会が増えたため、演奏者は一回一回の演奏に力を入れなくなったから。
- ③ ベートーヴェンの楽曲などの古典音楽は古さを感じさせるため、聞き手は深く共感せずに聞くから。
- ④ スピーカーから流れる音楽は聞き流されているだけで、聞き手は音楽と関わろうとしていないから。
- ⑤ 録音技術の向上によって規格化された音楽が大量生産されるようになり、演奏者は商品を作っているにすぎなくなったから。

問4 傍線部C「ネガティブの音楽世界」について述べたものとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

オ

- ① 暗い曲調の音楽を聞いたときに自然に体験する、音楽に触発された否定的で悲観的な気分のこと。
- ② 外から音楽を与えられたときにのみ共鳴して得られる、心の中で引き起こされる情動のこと。
- ③ 演奏したり作曲したりすることで表現されたものの、この世では有名になっていない楽曲のジャンルのこと。
- ④ その人自身の内部に存在し、まだ顕在化していない音楽を内包する土壌のようなもののこと。
- ⑤ あえて人に聞かせることをせず自分自身に対して演奏するときに見られる、独白的な形態の表現行為のこと。

問 5 傍線部 D「創造的な営み」とはどのようなことか。最も適切なものを、

次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

カ

- ① 生活のあらゆる場面で絶えず音楽を流し、常に音楽とふれあう環境を作り出そうとすること。
- ② 作曲や演奏という表現行為に重点を置き、新しい作品を生み出そうと努力し続けようとする事。
- ③ 時代の流行や自分の現在の状況に合った曲を選んで積極的に聞き、そうでない曲を聞かないようにすること。
- ④ 遠い昔の音楽を熱心に聞くことで、今も昔も変わらない音楽の本質を体得しようとする事。
- ⑤ 主体的に作り手→弾き手→聞き手→作り手の循環に身を置き、自分で音楽世界を豊かなものにしようとする事。

問 6 本文の特徴について説明したものとして適切なでないものはどれか、次

の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、

キ

- ① 比喩を用いて抽象的な概念を説明している。
- ② 取り上げる話題を少しずつずらしながら論を進めている。
- ③ 敬体を用いて読者に語りかけるように述べている。
- ④ 対照的な例を挙げて説明している。
- ⑤ 複数の時間・空間を織り交ぜながら説明している。

第5問 次の小説を読んで、後の問いに答えよ。

高校二年の森川航大は、校内の鉢植えが一つまた一つと消えていることに気づく。植物に詳しい大学生から、誰かが花の保護のために移動させているのだろう、早朝に行けばその人物がわかるはず、と教えられた。そこで翌朝早く登校した航大は、鉢植えを移動させている仲良しの柴田凜を見つける。水をやる凜について回った先には、ガザニアが黄色い花卉を元気に広げていた。

凜が蛇口を閉める。水道の音が止むと、静寂が際立つた。

「うまくいつてないの」

凜が（ I ）呟く。

「何が？」と航大が短く先を促す。

「今度の劇の稽古。順調なんて言ってたけど、本当は全然なんだ。嘘ついてごめんね」

「そうなのか？ 壮太も順調と言っていたけど」

航大の言葉を聞き、凜が口元を歪める。

「それが問題なの」

どういうことか、と航大は首を傾げる。

これまで我慢していた分を吐き出すように、凜は大きく溜め息を吐いた。

「正直、劇の完成度は低い。でも、他の部員の皆はいまの出来でもう満足しちゃってる。それが私の悩み」

「ああ」と航大は声を洩らす。ようやく、彼女の悩みが理解できた。

熱量の差。運動部でもしばしば起こる問題だ。演劇だって、チームスポーツに似た性質を持っているのだろう。個々人の理想や目標にギャップがあれば、自然と歪みが生まれてしまう。

「そのこと、部員同士で話し合ったりとかは？」

「してない。というか、できない。いま、部内の雰囲気はすごく良いから、それを壊すのが怖い」

諦観（注1）の滲んだ口調で、凜が答える。部員たちの目線の低さを嘆いているわけではなく、うまく皆を引っ張っていけない自分の不甲斐なさを恥

じているかのようなだった。

航大は、じっと凜の横顔を見詰める。苦しそうというより、迷子みたいに心細そうな顔をしている。このまま文化祭当日を迎えれば、演劇部の部員たちは満足するだろう。しかし、それは凜の目指すゴールとは程遠い。彼女の心が満たされることはない。理想と現実とのギャップに加え、部長としての責任感が彼女を蝕^{むしは}んでいる。舞台の成功の線引きをどこにすべきか、決めかねているのだ。

凜がもう一度溜め息を吐いて、続ける。

「人から嫌われることが恐いから、仲間外れにされないように周りに合わせて笑って、空気を読まない言葉を口にしないように、いつも神経を張り巡らせている。その結果、部長なのに部員に演技の要求ひとつできない。他人の目ばかり気にして、ひとりで勝手に思い悩んでいる。滑稽だよね。私はそんな^A薄っぺらな人間なんだよ」

凜の言葉は、何度も読み上げられたセリフのように淀^もみなかった。声に出さずとも、ずっと抱え続けてきた想^{おも}いだったのだろう。胸の奥底に溜め込んでいた自らの不満が、堰^{せき}を切ったように溢^{あふ}れ出している。

困り果てる友人の横顔を眺めていると、腹の底から強い感情が湧き上がってきた。彼女の助けになりたい、問題解決のための力になりたいという気持ちが全身を巡り、体が熱を持ち始める。自分の中にある目に見えない何かが、アクセルが踏み込まれるのを待つ車のように振動している。

突然の衝動に航大は驚くが、戸惑いはなかった。懐かしい。自分はこの感覚を知っている。サッカー部を辞める前、悩むことが嫌いだった自分は、いつだって思いのままに行動していた。(注2)

「薄っぺらじゃないだろ」

余計な一言はさらに彼女を傷付けることになるかもしれないと知りながら、航大は反論した。指摘せずにはいられなかった。

凜が航大に視線を向ける。彼女は痛みに耐えるように眉根を寄せていた。濃い黒色の双眸^{そうまう}(注3)が、慰めの言葉などいらないと拒絶している。

自分が刃物を手にしているような気分になり、航大は息を呑^のむ。これから

口にしようとしている言葉は、果たして本当に彼女のためになるのだろうか
と不安になる。 ^B口を閉ざし、沈黙に身を委ねたくなった。

腰に手を置き、大きく息を吐く。サッカーをしていたころ、PKを蹴る前に必ずやっていたルーティンだ。肺の中の空気と一緒に、不安と弱気を体外へと追いやる。緊張がほぐれ、心が落ち着いた。

一度口から出た言葉をなかったことにはできない。勢いに任せて、航大は続ける。

「誰に頼まれたわけでもないのに早起きして学校の花を世話しているような人間が、薄っぺらなわけがない」

「そんなの、たいしたことじゃないよ」

謙遜ではなく、本心からそう思っているのだろう。凜の声には、突き放すような刺々しさがあつた。

怯まずに、航大は言葉を重ねる。

「俺が同じことをしていたら？」

「え？」

「俺や他の誰かが凜と同じことをしていても、たいしたことじゃないと思う？ それくらい普通のことだ、って」

^C「それは……」

凜は言葉に詰まり、困ったように眉をひそめた。沈黙が、彼女の答えを雄弁に語っている。他人に優しく、自分に厳しい。それは立派な心持ちだが、それ故に自らの美点を素直に受け入れられないことは、彼女の明確な欠点だ。屋根より高いハードルを見上げて嘆息するなんて、それこそ滑稽だ。

プランターに植えられた花の姿が頭に浮かんだ。一見すると美しいその花も、よく観察してみれば、咲き終わり、枯れた花をいくつもその身に付けたままにしている。重苦しく、辛そうだ。

いまの自分に、彼女の悩みを解決する力はない。しかし、彼女が抱えている不要なものを取り除くことくらいなら、自分にもできるのではないかと航大は思う。花がらを摘むように、不当に彼女の心を重くしているものたちを、ひとつひとつ取り払う。それも、彼女の力になるということではないだ

ろうか。

「誰だって人から嫌われることは恐いよ。俺もそうだ。いまだって、自分の行動は凜にとって迷惑なんじゃないかって不安になってる」

「そんな。迷惑なんかじゃないよ」

両手を大きく左右に振り、慌てた様子で凜が否定する。その大袈裟な仕草が余りにいつも通りで、航大は少し緊張がほぐれた。

普段の明朗快活な姿を、凜は本当の自分ではないと言った。でも、咄嗟に顔を出した彼女の一面は、航大のよく知る彼女だった。やはりその顔も、彼女を形づくる一部なのだ。たとえ演じていたものであっても、偽りではない。そのことに（Ⅱ）した。

肩の力が抜ける。重く考えることなんてないのではないかと思えてきた。普段通り、軽口のキャッチボールをするみたいに、思い付きを口にすればいい。それくらい気楽な方が、相手だって変に緊張しないで受け止められる。

「なあ、無責任な提案をしてもいいかな」

凜が怪訝な顔で航大を見る。

「無責任な言葉なら、あんまり聞きたくないんだけど」

「それなら止めとくよ」

航大があつさりと引き下がると、凜は（Ⅲ）して唇を尖らせた。

「そんなふうに言われると、却って気になっちゃうでしょ」

「それじゃあ、聞いてみる？」

微かに逡巡する（注4）ような間を置いてから、凜が首を縦に振る。

「聞いただけ聞いてあげる」

航大は頷き、天井を見上げるようにして口を開く。

「今日の部活、休みにしたら」

期待外れの提案に失望したように、凜の表情が曇った。

「それは無理。ただでさえ稽古がうまくいつてないのに、もう本番はすぐそこなんだよ。休んでる余裕なんてないって」

「でも、いまの状態で稽古したって意味がないんじゃないか？ 部員は現状に満足していて、凜はそこに注文をつけられないでいるんだろ。それじゃあ

改善のしようがない」

淡々とした口調で航大が指摘すると、凜は口を閉ざして俯^{うつむ}いた。彼女自身、そのことは痛ほど理解しているのだろう。

「休めば改善するってものでもないと思うけどさ、俺の知り合いの役者さんが言ってたんだよ。『適度に休まないと、良い芝居なんてできない』って」

凜が口を開くが、言葉を発するよりも先に、何かに気付いて固まった。眉をひそめて、航大を睨^{にら}む。

「それ、私が言った言葉でしょ」

航大が笑みを深める。

「正解。よく気付いたな」

以前この場所で、彼女が言っていた言葉だ。雑談の中の軽口のひとつだが、間違っているということもないだろう。休息は大事だ。陽が出ていないときにガザニアが花を閉じるのは、もちろん裏表があるからなんて理由ではない。それはきつと、余計なエネルギーを使わないようにするためだ。美しく咲き続けるために、体を休める必要性を知っているからだ。

「気付くよ、それくらい。私を馬鹿だと思ってるの?」

「まさか。天才だと思ってるよ」

「馬鹿にしてるでしょ」

「多少ね」

「そこは嘘でも否定しなさいよ」

凜は（Ⅲ）して眉根を寄せるが、くだらないやり取りに呆^{もど}れたように、唇の端は微かに吊り上がっていた。雑談に興じているときの、いつもの調子だ。

彼女はじょうろをシンクの上に置き、思案するように腕を組む。

「休みねえ。休んだところでアレコレ考えちゃいそうだけど」

「アレコレ考えればいいさ。そして、今日で結論を出せばいい。このまま本番を迎えるのか、部の皆にもっと良いものを目指そうと提案するのか。結局のところ、問題はそこだろ」

凜は眉を八の字にする。

「それを決められないから、困ってるんだけど」

「だから、決めるためにもう一度、よく考えるんだよ。大丈夫。どんな結論を出そうと、部員の皆は受け入れてくれるって」

無根拠で無責任な言葉だな、と航大は自分でも思う。ただ、根拠はなくても、自信があった。皆が凜を慕うのは、彼女の優しさに惹かれたからだ。その優しさは、決して演じられたものではない。人知れず自主的に校内の花の世話をするような女の子が、演技の要求をするくらいのこと、嫌われるわけがない。

「あんた、壮太くらいしかうちの部員に知り合いいないでしょ」と凜が唇を尖らせる。

「それじゃあ部員のことをよく知っている凜に訊くけど、演劇部の皆さんは、部長にもっと上を目指そうと言われて、稼に話も聞かずに不満を口にするような連中なのか？」

「そんな人はいない、けど……」

凜は答えるが、尚も不安そうだった。一度浮かんだ悪い想像は、簡単には振り払えないのだろう。

航大は大袈裟なまでに背中を反らし、自分の胸をドンと叩いてみせる。

「大丈夫。どうしても決められないんだったら、俺が決めてやるから」

「何でコウが決めるのよ」と凜が冷めた声で言う。

「だって、自分じゃ決められないんだろ？ どうせ決められないのなら、俺が決めたっていいじゃないか」

いいわけないでしょ、と凜が呆れ顔でかぶりを振り、両手を上げて伸びをする。太陽から活力をもらうように、窓から射す陽光を全身で浴びる。

「あーあ。何か、あんたとアホな会話をしていたら、色々と悩んでいた自分が馬鹿馬鹿しく思えてきちゃった」

やや芝居がかったその口調は、航大へというより、自分自身を叱咤しているように感じられた。

「もう悩む必要はないぞ。俺に任せておけ」

「無責任男を頼るつもりはありません」

凜は（Ⅳ）言い放ち、挑むように航大を指差して不敵に笑った。

「あんたに決められるくらいなら、自分で決める」

航大は笑顔で肩を竦める。

「できるといいな」

「おかげ様で、意地でも自分で決めてやろうって気になったよ」

爽やかな笑顔を浮かべて、凜は悪戯っぽく舌を出す。軽やかに宣言したその声に、陰りの色はもうなかった。

（真紀 涼介『勿忘草をさがして』による）

注 1 諦観…あきらめの気持ち。

注 2 サッカー部を辞める前、行動していた。…同級生に絡まれた他校の友人をかばった航大は、殴られて抵抗した際に相手にけがを負わせた。正当防衛は認められたが、サッカー部に処分があるだろうと顧問から言われ、大好きだったサッカー部を自主退部した。彼は、それ以降やりたいこともなく、人のために何かをしようとも考えない、鬱々とした日々を送っていた。

注 3 双眸…二つの瞳。

注 4 逡巡する…ためらう。

問 1 空欄（Ⅰ）～（Ⅳ）に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。ただし、二か所の（Ⅲ）には同じ語句が入る。解答欄は、

ア

- | | | | | |
|---|---------|--------|--------|---------|
| ① | Ⅰ ポツリと | Ⅱ ホツと | Ⅲ ムツと | Ⅳ キツパリと |
| ② | Ⅰ ボソツと | Ⅱ ハツと | Ⅲ ホツと | Ⅳ ビシツと |
| ③ | Ⅰ ブツブツと | Ⅱ ムツと | Ⅲ ハツと | Ⅳ キツと |
| ④ | Ⅰ キツと | Ⅱ イラツと | Ⅲ ボソツと | Ⅳ ポツリと |

問2 傍線部A「薄っぺらな人間」の説明として最も適切なものを、次の

①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

イ

- ① 意志がはつきりせずいつもふらふらしていて、周りの意見に流されてばかりの中身のない人間のこと。
- ② 周りが気になってあれこれ悩むばかりで、自分の信じる通りに覚悟を持って進むことのできない人間のこと。
- ③ 人からの評価を気にして、本当はしたいことがあったのに自分の考えを捨ててしまった人間のこと。
- ④ 責任ある立場にいるのに、考えることや判断を周囲に委ねてしまうような責任感が足りない人間のこと。

問3 傍線部B「口を閉ざし、沈黙に身を委ねたくなつた」とあるが、航大のどのような気持ちを表しているか。説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

ウ

- ① 相手は誰かから救いの言葉をかけてもらいたいと望んでいるが、かけるのにふさわしい言葉をまだ見つけられないから、何も言わずに相手が話すまで待つていたいという気持ち。
- ② 相手が傷付いて一人で悩んでいるのをわかっているが、かける言葉は、どうしても心の傷をえぐることになるから、何も言わずにこの場から逃げたくなっている気持ち。
- ③ 相手が苦悩している際に他人が安易にかける言葉は、どうしても当事者ではない無責任さを伴うことになってしまうから、何も言わずにもっとゆつくり言葉を選びたいという気持ち。
- ④ 慰めの言葉を拒絶している相手にあえてかける言葉は、触れられたくない部分に切りつけて心を傷付けることになるから、何も言わずにそのまま口をつぐんでおきたくなっている気持ち。

問 4 傍線部 C「それは……」の「……」は口から出せなかった言葉だが、あえて出すとすればどんな言葉が入ると考えられるか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

エ

- ① やつぱりたいしたことだから、私もすごいんだね。
- ② 確かにたいしたことだけど、コウがするはずないでしょ。
- ③ すばらしいことがかもしれないけど、私はそうじゃないんだなあ。
- ④ 本当に普通のことだと思うから、たいしたことじゃないよ。

問 5 問題文中にガザニアを描くことで、どのような効果が生まれているか。説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、

オ

- ① 美しく咲くために夜に花を閉じてエネルギーをためるガザニアを描くことで、凜も休息を取れば元気が出るはずだと思わせる効果。
- ② 陽の下では花を開き夜には閉じるガザニアの二面性を描くことで、皆の前で明朗快活なふりをしている凜の偽りの姿を印象づける効果。
- ③ 陽を浴びて元気に花を開くガザニアを描くことで、凜を励ますための活力を太陽からもらっている航大の様子を想像させる効果。
- ④ 太陽に向かってまっすぐ伸びるガザニアの姿を描くことで、演劇の舞台での自信に満ちあふれた凜の姿を連想させる効果。

問 6 凜に対する航大の接し方はどのようなと言えるか。最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選べ。解答欄は、カ

- ① 嫌な気持ちにさせないように、細心の注意を払って言葉を選ぶ、腫れ物に触るような接し方。
- ② 心の負担にならないようにいつもの距離感を大事にし、最後は凜自身が決断できるように促す接し方。
- ③ 遠回しに指摘することで、凜のプライドを傷付けず、航大の考えも悟らせないようにする接し方。
- ④ いつも通りに明るく振る舞うことで、勝気な凜から嫌われないようにする接し方。

問 7 この小説における文章表現の特徴として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答欄は、キ

- ① テンポのよい会話で物語を進行させることで、話をしている二人の関係の良さが伝わりやすくなっている。
- ② 言葉を二つ並べたり、短文を用いたりしたことで、表現にリズムが生まれている。
- ③ 凜や航大の動作や表情を丁寧に述べることで、心情の変化が伝わりやすくなっている。
- ④ 直喩を効果的にちりばめたことで、登場人物の心情や様子がわかりやすく生き生きと描き出されている。
- ⑤ 第三者の視点から登場人物の言動や考え方を公平に描くことで、読者がその是非を判断しやすくなっている。

〔基礎学力テストの問題は以上です。〕